

令和 3 年度（2021 年度）第 5 回南区まちづくり懇話会（書面開催）
意見票まとめ

（1）令和 3 年度南区まちづくり推進事業・復興支援自治推進事業について

- ・中止となった事業が多く、特に防災に関して避難訓練など緊急時のシミュレーションができなかったことは残念だと感じた。次年度以降、開催できる時にすべきだと思う。
- ・家庭訪問型子育て支援事業について、この取り組みの継続をお願いしたい。
- ・防災フォーラムに参加したが、参考になった。ぜひ定例化してほしい。「南区防災の日」のようなものを設けて、一斉避難訓練やフォーラムの開催を行うことで、区民の一体感を醸成することにも繋がると思う。
- ・コロナ禍の新たなまちづくりとして、SNS を活用したまちづくりは必須になってきた。それだけに、地域団体向け出張 SNS 講座の参加者数が少なかったのは残念。
- ・天明地区の防災に関するアンケート結果が気になる。災害発生前の予防、備え、災害時の避難、災害後の避難所生活など災害のフェーズに応じて防災計画作成を行っていただきたい。

（2）令和 4 年度の南区まちづくり推進事業について

- ・南区いきいきスポーツ大会について、ミニバレーとグラウンドゴルフの予定だが、参加者が限られるので、誰でも参加できるものも考えるとよいのではないか。
- ・補助金申請のデジタル化に伴い、パソコン等の購入経費について補助が必要である。
- ・まちづくりをリードする人材育成を強化していければと思う。
- ・地域コミュニティづくり支援事業について、コロナ禍でますます集うことが少なくなっている。地域のボランティア団体も後継者不足で悩んでいる。活性化への取組等について発信してほしい。
- ・ICT に関することは企業も巻き込んでやってほしい。地域の魅力を発信するきっかけになると思う。
- ・予算が変わらない中で事業の数を絞ることができている点（26 事業→18 事業）はよい方向性だと思う。
- ・時限で事業費がなくなった復興支援自治推進経費について、通常事業に入れようとしている点はよいと思う。災害公営住宅におけるコミュニティづくりについて、以前から手薄であった印象があり、特に地域コミュニティづくり支援事業などでのフォローを検討していただきたい。

- ・先延ばしになっていた「たからものマップ」をぜひ実現させたい。やり方によっては、かなりの可能性があると思う。

- ・それぞれの事業をそれぞれの担当部署が単独で実施するのではなく、関連づけられるものは積極的に連携しながら実施していただきたい。

- ・終末期医療が事業として登場してきたのは初めてだと思う。結婚、妊娠、子育て、終活などまちづくり事業の幅広さを感じる。

- ・まちづくりセンターを横断した事業も計画されており、まちセンの連携はますます重要になってくるので、区役所とまちセンの意見交換の機会もさらに増やしていただきたい。

- ・幸田まちづくりサポーターをモデルに、各校区の実情に合わせた新たなまちづくりの担い手の発掘、育成に取り組んでいただきたい。

- ・企業や団体などを訪問し、ワークショップの案内やまちづくり活動の報告をしたり、訪問先の困りごとを調査するなど、ネットワーク作りが重要と思う。また、ワークショップ参加者をまちづくりの主体としてつなぎとめる（育てる）ための工夫も必要。

(3) その他

- ・SNS を活用する時代になったが、自治会や老人会、社会福祉協議会など組織でパソコン、プリンタ、タブレットを所有していない。機器をどう準備するか、資金、管理をどうするかが問題。

- ・南区校区カルテにあった情報や分析結果をできる限り広く知らせていただきたい。

- ・いろいろな情報をいただける場であり、それを地域や役域へ持ち帰り、喜ばれるような会だと思っている。

- ・コロナ対応は必要ではあるが、懇話会は書面ではなく対面で開催すべき。

- ・いい意見や取り組みがあったら、見た、聞いた、良かったで終わらず行政や自治体に取り入れてほしいと思う。

- ・まちづくりの担い手が不足している中で、まちづくり懇話会 OB の皆さんの動向が知りたい。もし余力のある OB がいらっしゃれば「まちづくりコーディネーター」のような肩書で、ワークショップなどに参加いただき、地域と行政のつなぎ役や、人材のリクルーターとしての役割を与えてみてはいかがでしょうか。